

科目名	英語圏文化特殊研究	担当者	オザワ 小澤 エイミ 英実	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>文学批評理論の体系を学び、みずからの作品研究の手法に実践的に採り入れるための授業。前期は、イギリスのゴシック文学の祖とされるメアリー・シェリー『フランケンシュタイン』をさまざまな批評理論から読み解くことで諸理論を体系的に概説した教材1を用い、一つのテキストがいかに多様な解釈に開かれているかを理解し、研究手法によって古典作品が新たな様相をとりうることを学ぶ。後期は前期に学修した内容をベースとし、1853年の発表以来、さまざまな哲学者や思想家に解説されてきたHerman Melvilleの中篇Bartleby, the Scrivenerを原文で精読し、題材に批評理論を用いた研究を行うことで、英語での読解力と批評理論の応用力を定着させる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文学作品を理解するうえで有益な批評研究の方法をみずから用いることができるようになる。英語の小説を精読し、内容について歴史的・文化的・政治的な分析や考察を行うことができる。参考文献や引用の形式を含めた、学術論文の基本的なフォーマットを習熟する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 古典文学を現代社会に布置することで生まれる新たな読みの可能性や批評的視座を学ぶ。みずからの問題意識を発展・深化するうえで有益な批評理論のアプローチを学ぶ。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を利用し、教員と院生との双方向性を重視した個別指導や意見交換を実施する。 ・manaba folio の掲示場や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 ・図書館、インターネット等で独自に先行研究を渉猟し、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修を要するものとする。 1) 教材の学修: 20時間 2) レポート執筆: 10時間 3) レポート推敲と最終稿の完成 (教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む): 15時間</p>		
スケジュール	<p>前期: 教材1のレポート課題(1)の草稿……6月末 教材1のレポート課題(2)の草稿……8月末 後期: 教材2のレポート課題(1)の草稿……11月15日 教材2のレポート課題(2)の草稿……12月末 最終稿の提出期限は、前期および後期の締切日とする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	1) 教材を精読して理解し、課題に応える内容になっているか。 2) 引用の適切さ、論旨の明確さ、独創性。 3) 学術論文の体裁が整っているかの3点から評価する。
	観察記録	20%	メール、manabaを活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・教師からのフィードバックやピア・レスポンスをもとに段階的にレポートを完成させる。 ・引用や出典の明記など、学術論文のルールに則ること。無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 廣野由美子（著） 教材名： 『批評理論入門 『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書、2005） ISBN978-4-12-101790-1 820 円＋税
	批評理論についての概説書のなかでも、『フランケンシュタイン』をテキストに、読み方の実例を提示している点で有益な書。二部構成をとり、小説の第一部の小説技法篇と第二部の批評理論編からなる。第一部は小説にはどのようなテクニックが使われているのかを、第二部は作品を読み解くための方法論を解説している。
参考図書	メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』（小林章夫訳、光文社古典新訳文庫、2010） ISBN978-4334752163 880 円＋税
履修上のポイント	かならず参考図書と併読しながら教材 1 を読み込んでほしい。『フランケンシュタイン』の日本語訳には複数の版があり、ここでは入手しやすいものを挙げたが、原文はもちろん、ほかの翻訳でも構わない。教材 1 の各チャプターは短いため、各トピック内に登場する用語や作品、巻末の参考文献などを図書館やインターネットを通してリサーチし、学修を深めてもらいたい。
レポート課題 1	教材 1 の「Ⅰ：小説技法篇」の 15 のトピックから一つ以上を選び、みずから選んだ英語圏の文学作品（小説をはじめ詩や戯曲も含む）を、選択したトピックとの関連から論じる。（3000 字） 留意点： 教材ではそれぞれトピックや用語の説明に重点を置いているため、それをどのように作品分析に役立てるかについては十全に掘り下げられているとはいえない。レポートでは教材の解説を出発点に、適宜テキストを引用しながら、さらに考察を深化させること。
レポート課題 2	教材 1 の「Ⅱ：批評理論篇」にある 13 の批評理論から一つを選び、みずから選んだ英語圏の文学作品（小説をはじめ詩や戯曲も含む）を、選択した批評理論を用いて分析・考察する。（3000 字） 留意点： ひとつひとつの理論の紹介は短いため、選択した理論については図書館で検索した文献を参照して補うことがのぞましい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Herman Melville 教材名： <i>Billy Budd, Bartleby, and Other Stories</i> . Penguin Classics. 2016. ISBN-13:978-0143107606 1192 円＋税 （Paperback）
	ハーマン・メルヴィルの中短篇を集めた作品集より、彼が 1853 年に執筆した <i>Bartleby the Scrivener</i> を扱う。この中篇は、ウォール街にある法律事務所に代書人として雇われた謎めいた青年主人公をめぐって、人間の生の条件や資本主義と文学のエコノミーの問題などを照射し、さまざまな思想家や哲学者に読み解かれ、いまでも労働する現代人の心を魅了しつづけている。
参考図書	ジョルジョ・アガンベン『バートルビー 偶然性について』（高桑和巳、月曜社、2005 年） ISBN:4-901477-18-8 2400 円＋税
履修上のポイント	教材所収の作品のなかから“Bartleby the Scrivener”のみを扱うため、使用する教材はほかの入手しやすい版でも構わない。（Annotated 版がのぞましい。使用した版を学術論文のルールに則って明記すること）。参考図書には邦訳が附されているため、原文の精読理解の際の参考にしてもよい。また <i>Bartleby</i> を論じた書物は参考図書以外にも多数ある。積極的に他の文献に当たることがのぞましい。
レポート課題 1	教材を精読し、前期に学んだ小説技法の観点から、分析・考察しなさい（3000 字） 留意点： たださまざまな技法を抽出して羅列するのではなく、作品においてどのような効果をあげているか等、ひとつひとつを深く掘り下げて論じること。
レポート課題 2	教材を精読し、前期で学んだ批評理論のアプローチを用いて論じなさい（3000 字） 留意点： 必要に応じて教材執筆時の歴史状況や作者について、先行研究や他の文献資料に当たること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1、I の 1～5 を、参考図書とともに学修する
第 2 回	教材の学修：基本教材 1、I の 6～10 を、参考図書とともに学修する
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の精読 11～15 を、参考図書とともに学修する
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1、II の 1～4 を、参考図書とともに学修する
第 9 回	教材の学修：基本教材 1、II の 5～8 を、参考図書とともに学修する
第 10 回	教材の学修：基本教材 1、II の 9～13 を、参考図書とともに学修する
第 11 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 3 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 9 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 10 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 11 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成